

第6回「地域フォーラム」概要

開催テーマ 「地域のビジョンづくり」

日時 令和元年9月16日(月・祝) 13時30分～15時30分

会場 黒滝村こもれびホール

資料説明	荒井奈良県知事
	<p>奈良県は、北と南、平野と中山間地と森林でそれぞれの地勢は異なりますが、全体を捉えてみると共通するところもあります。これまでのまちを良くするための努力を確認して、これからの歩むべき道筋を探索することは常に必要であり、今後の奈良県発展の目標と道筋を考えましょうというのがこの会議の趣旨です。</p> <p>まず、これまでの奈良県の立ち位置ですが、奈良県では急速な人口減少や高齢化が進むとともに、県外就業率も全国トップクラスであり、成熟したベッドタウンにおける諸課題が発生している状況です。こうした諸課題に対応するため、働く場の確保や子育て支援、まちのリニューアルが大事だと認識し、取組を進めています。</p> <p>例えば、観光の分野では、宿泊施設は奈良市などに集中していますが、南部地域でも民泊やスポーツ合宿が出始めています。これからは民泊のサービスやスポーツ合宿をどう充実させるかが南部地域の課題です。</p> <p>また、林業の分野では、森林管理の目的を生産だけでなく防災、生物多様性の維持、レクリエーションの発揮とする新たな森林環境管理制度の構築のため、条例の制定や奈良県版のフォレスターを養成するフォレストアカデミーの設立などの検討を進めています。</p> <p>バランスをとりながら多くの課題に取り組もうというのが「都」づくり戦略です。まだ不十分なところもあると思いますので、県の様々な地域の事情を聞きながら、このような会議で県の考え方も示し、地域の考え方も反映できるようにと思っています。お互いに勉強しながらまちの発展の知恵を出し合いたいと思っています。</p>

資料説明	北岡吉野町長
	<p>吉野町では、まちづくり基本条例に基づき、住民と町の協働でまちづくりを進めています。</p> <p>取組として、旧小学校区域で自治協議会を結成し、自主防災の組織や鳥獣害対策等について部会を作り、自主的なまちづくりに取り組んでいます。町も交付金による財政的な支援や地域担当職員の配置といった人的支援を行っています。活動の中では、空き家の利活用による町外の方と住民との交流も生まれています。</p> <p>また、ふるさと教育も含めた小中一貫教育を推進しております。統合により空いてくる小学校の跡地の活用は、地元の方々と一緒に考えていきたいと思っています。</p> <p>今後も地域、住民の協働と関係人口の増加、重点施策の確実な実現を進めていきたいと思っています。</p>

資料説明	岡下大淀町長
<p>大淀町では、①来たいまち、②住みたいまち、③住み続けたいまちの3つの基本目標に基づき、事業を展開しています。</p> <p>具体的な取組として、①では、道の駅でのイベントやおおよど遺産制度の創設による賑わいの創出や郷土愛の醸成、②では、南奈良総合医療センターの開院やコミュニティナーズの活動等の住民が安心して暮らせる取組、③では、後継者不足解消を目指す農業塾の開設、商工会と連携した新しいブランド商品の開発に取り組み、地場産業の活性化、雇用の促進につなげたいと思っています。</p> <p>2021年に町制施行100周年を迎えるという節目をきっかけに、町の課題を行政、住民、企業が一体となって解決するまちづくりを進めていきたいと思っています。</p>	

資料説明	辻村黒滝村長
<p>黒滝村では、令和元年2月に県とまちづくりに関する包括協定を締結し、道の駅吉野路黒滝から村の中心地へ人の流れを誘導し、交流・関係人口を増やし、定住につなげようとして取り組んでいます。</p> <p>具体的な構想として、道の駅の全面再整備により、集客拠点としての機能向上だけでなく、情報発信拠点としての活用を進めるとともにジップスライドやボルダリングなどの体験型アクティビティを充実させ、将来の移住や定住につながる体験づくりを進めています。</p> <p>今後も、森と人が育む魅力ある暮らしづくり、まちづくりをコンセプトに村の最大の資源である森や川といった自然のさらなる活用や今ある県や村の公共施設・拠点の利活用などによりまちづくりを進めてまいります。</p>	

資料説明	角谷野迫川村長
<p>野迫川村では、人口減少等の課題に対して①「地方創生実現への着実な取り組み」②「安心・安全に暮らすことのできる生活基盤の整備」③「災害からの復興及び減災への取り組み」④「教育・文化の振興による魅力的な村づくり」⑤「行財政改革の推進」の5つの方向性を示し、取組を行っています。</p> <p>①では、ブランド力のあるしいたけ販売や廃校舎のリノベーション、②では、18歳までの医療費無償化等による医療や福祉体制の充実、③では、施設整備や防災意識の向上、④では、ICT教育環境の充実、⑤では、費用対効果を重視した住民サービスの充実に取り組んでいます。</p> <p>引き続き、これらの方向性に基づきながら、次の新しいビジョンの策定に取り組んでまいります。</p>	

資料説明	南下北山村長
<p>下北山村では、①「～森と生きる 仕事づくり ものづくり、ひとづくり～」②「～森に遊ぶ もてなし、ふれあい、感動づくり～」、③「～森で育む 子どもの笑顔ときなりライフ～」の3つの基本目標に基づき、取組を進めています。</p> <p>①では、自伐型林業のモデル実施や6次産業化の拠点整備、②では、下北山スポーツ公園を核としたアウトドアやサッカー合宿などのスポーツによる誘客、③では、関係人口の創出を目指し、都市圏在住者に継続的に村にかかわってもらうための奈良・下北山むらコトアカデミーの実施や下北山コワーキングスペースBIYORIの整備等に取り組んでいます。</p> <p>これらの取組から生まれる関係人口が、村づくりに発展していくことを期待しています。</p>	

資料説明	山室上北山村長
<p>上北山村では、自然を生かした観光産業を軸に村おこしを進めたいと思っています。</p> <p>村全域がユネスコエコパークであることを生かしたスポーツツーリズムとして、ヒルクライム大台ヶ原自転車レースを開催し、年間を通じてサイクリストの方々が訪れています。併せて、世界遺産を利用したエコツーリズムを推進し、村中心部まで集客を図るため、魅力づくりをしています。</p> <p>村おこしの拠点に加えて、内外に魅力を発信していく核となるのが、現在再生している休館中の宿泊施設であり、この施設を核とした「スポーツツーリズム」、「エコツーリズム」、「グリーンツーリズム」の推進により、交流・関係人口、移住者を増やし、人口減に歯止めをかけたいと思っています。</p>	